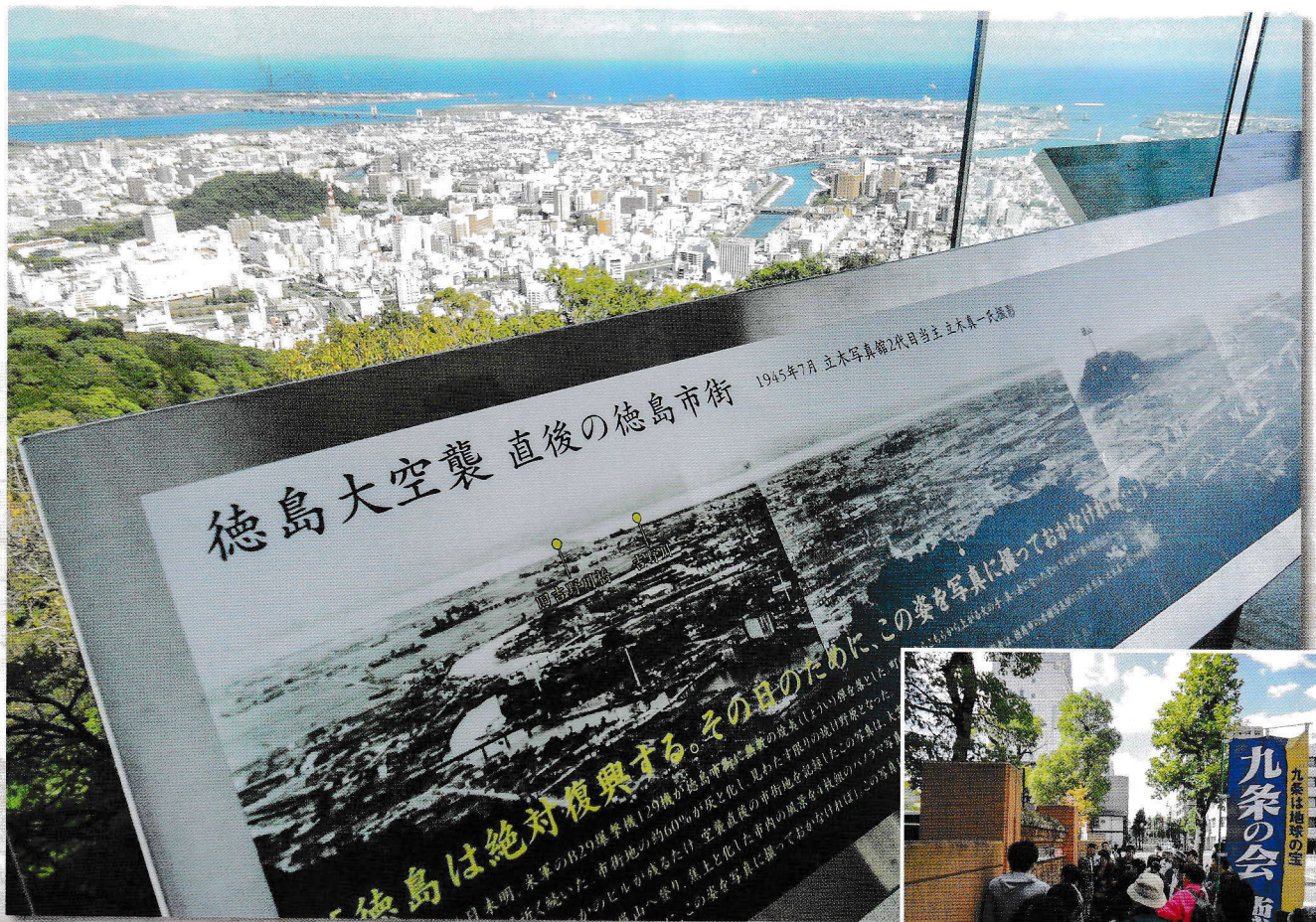


語り継ぐ徳島大空襲

—— 戦跡めぐりピースウォーク ——



眉山山頂無料展望台に設置されている徳島大空襲直後の徳島市街の写真。
背景は現在の徳島市街。



城東高校赤れんが前 (2014.11.3)

日本は、先の大戦における加害と被害の経験を踏まえ、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように決意し、二度と戦争をしない、そのための戦力も持たないと決意し、戦後、再出発をしました。しかし、昨今、憲法9条を変えて、政府が行う軍事的な活動に対する縛りを緩めようとする動きがあります。

「戦争は、全てを破壊し、何も生み出さない」。私たちは、2010年から徳島九条まつりを開催し、その企画の一つとして、戦跡めぐりピースウォークを実施してきましたが、改めてそのことを実感しました。私たちは、戦後75周年、そして第10回徳島九条まつりという節目の年にあたり、この活動を記録に留めるため、このパンフレットを作成することとしました。

2020年11月3日

九条の会徳島

事務局長 上地 大三郎

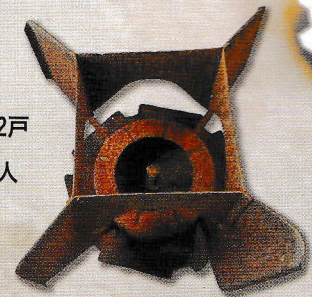
徳島大空襲

1945年（昭和20年）7月4日、米軍のグアム島基地を出撃したB29爆撃機129機が徳島市に飛来。午前1時24分から同3時19分までの1時間55分間に焼夷弾1,050トン进行投下したと報告されています。焼夷弾の数は35万4,664本、当時の徳島市の人口は約12万人、1人に3本の焼夷弾が落下してきた計算になります。無差別爆撃であったため、子どもや女性、お年寄りなども犠牲になり、死者約1,000人、負傷者約2,000人、被災者は7万人にものぼり、徳島市内の62%が焦土と化しました。

1945年（昭和20年）

徳島県内への空襲

- 1/16 海軍徳島航空基地(板野郡松茂町)を艦載機が攻撃
- 3/14 阿南市椿泊町へB29が焼夷弾投下 …… 家屋焼失7戸
- 3/20 板野郡藍住町徳命へ爆弾投下 …… 死者3人、家屋全壊1戸
- 4/26 板野郡松茂町の海岸線にB29が投弾
- 6/1 徳島市沖洲の造船所にB29が投弾
- 6/5 徳島市津田町に焼夷弾を投下
- 6/7 海部郡海陽町四方原に爆弾投下 …… 死者8人、負傷者8人、家屋全半壊16戸
- 6/15 徳島市沖洲・中吉野町に爆弾 …… 死者4人、負傷者39人、家屋全半壊61戸
- 6/22 徳島市秋田町周辺に爆弾 …… 死者123人、負傷者101人、家屋全壊69戸
- 6/22 小松島市小松島町・和田島町に爆弾 …… 死者2人、負傷者1人
- 6/26 徳島市下助任町、住吉に爆弾 …… 死者36人、負傷者50人、家屋全半壊146戸
- 6/26 阿南市那賀川町中島に爆弾 …… 死者3人、負傷者1人
- 6/26 板野郡松茂町に爆弾 …… 死者4人、家屋全半壊20数戸
- 7/3 小松島市日開野町に焼夷弾 …… 死者1人
- 7/4 徳島大空襲(同日に姫路、高松、高知にも空襲)
- 7/24 鳴門市大麻町に爆弾 …… 死者7人
- 7/24 阿南市富岡町に爆弾 …… 負傷者1人
- 7/24 徳島市蔵本町の連隊本部、陸軍病院爆撃
- 7/25 吉野川市美郷に爆弾 …… 負傷者14人、家屋全半壊2戸
- 7/30 阿南市那賀川鉄橋を走行中の列車を銃撃 …… 死者約30人、負傷者約50人
- 7/30 阿南市津乃峰町に爆弾 …… 負傷者数人
- 8/3 那賀町仁宇 焼夷弾 …… 負傷者1人



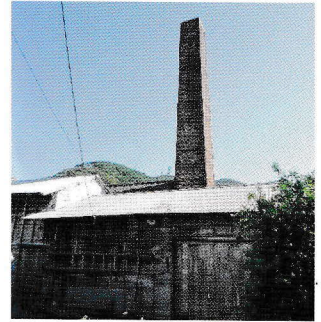
焼夷弾の尾部

反核・憲法フォーラム徳島所蔵

徳島大空襲の史跡

① 山屋商店の煙突

安政年間（1854-1859）創業という米酢・しょうゆ・味噌製造「山屋商店」（佐古三番町）に高さ21メートルの煙突がそびえています。徳島大空襲による戦火をくぐりぬけ、2004年（平成16年）まで現役を勤め、今も山屋のシンボルとして親しまれています。



② 船場橋起工碑

1911年（明治44年）に船場と佐古を結ぶ道路と橋梁が完成した時、建設に尽力した人たちの業績をたたえて建てられた碑です。徳島大空襲の高熱で亀裂が入り、上部は剥落しています。

起工碑の対岸に暮らしていた当時15歳だった西條史朗さん（右から4人目）が「父が招集され不在だから家を守らねばと必死に消火したが、どうしようもなくなり佐古川に飛び込んだ。空襲が終わり這い上がって見た世界は一面の焼け野原で焼死体が数体ころがっている死の世界だった。やがて昇ってきた太陽はすごく大きく

灼熱した溶鉱炉のような色だった。爆弾が大腿部を貫通した姉は、血清が入らず亡くなった。かろうじて焼け残った花柄の浴衣を着せ、道ばたで摘んだ雑草の白い花を握らせ、タイヤの空気が抜けたリヤカーに白木の棺を乗せ、私が引き会葬者は母一人であった」と語ってくれました。（2013.11.3）



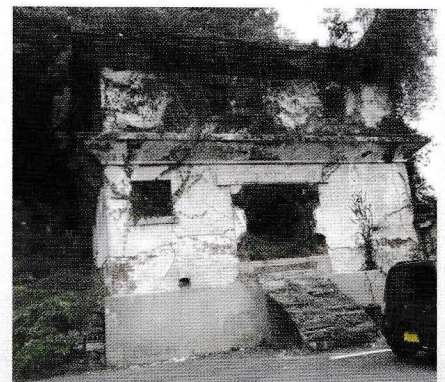
③ 旧蔭山邸別館

大正年間に建設された「蔭山邸」は、1、2階がれんが造り、3階が木造で、欄干は朱に塗られた美しい建物だったそうです。徳島大空襲では3階が焼失し、れんが造りの外壁のみが残りました。

1979年（昭和54年）に一度取り壊す動きがあったものの、れんがの外壁があまりにも重厚



（2020.9.21 撮影）



（2013.11.3の第4回九条まつりの折に撮影）

だったことや市観光協会から保存を勧められたこともあり、残すことになりました。1980年代には徳島県庁や徳島市役所、県教育会館など空襲に耐えた建築物が次々に建て替えられていたことから、1990年（平成2年）に「徳島空襲を記録する会」（湯浅良幸会長）が、管理する天理教徳島教務支庁に保存を申し入れ、残されてきました。

しかし、近年老朽化が激しいとして解体されました。

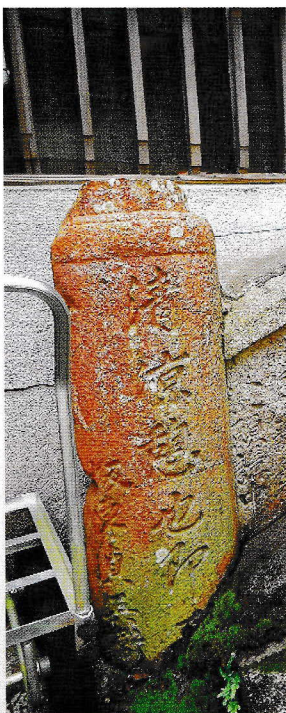
④ 常慶院滝薬師



焼夷弾の直撃で隅飾りが落ち高熱で塔身の種子(梵字で表記した仏尊)が剥落した宝篋印塔。



徳島藩の藩医であった井上不鳴の碑。高熱によりひびが入り、碑面が損壊しています。



大滝山登り口石段袖垣の隅飾り石柱。左右一対の石塔ですが、左側のは頭部が無く、右側のは文字が削られています。



鳥居龍蔵の祖父が寄進した山門口石段袖垣の隅飾り石柱。左右一対のものですが、左側のは表面が削られ文字が消えています。

⑤ 春日神社

空襲で絵馬堂以外は焼失しました。境内には焼夷弾の直撃により、顔面や立尾が損壊しひびが入った狛犬、黒ずんだ狛犬、笠石の蕨手飾りが落ちた灯籠など空襲の痕跡が多く見られます。

焼夷弾落下の跡がたくさんあった参道敷石は張り替えられたそうです。向かって鳥居左の灯籠は、壊れた宝珠から火袋までが転用品となっています。



⑥ 東宗院の山門



徳島大空襲で焼失を免れた山門には、空襲後焼け出された人たちがしばらく生活していたそうです。

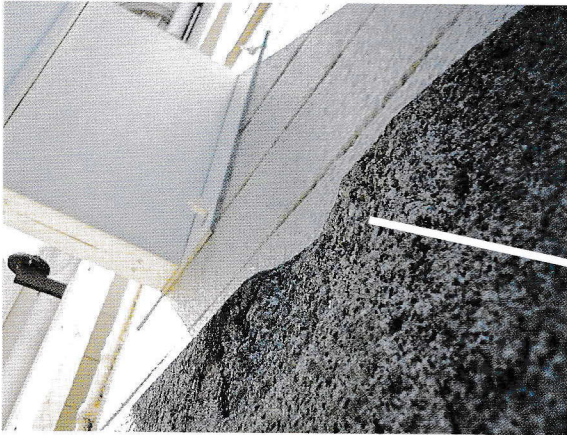
⑦ 本覚寺の土塀



高熱により土塀の表面が焼け剥落しています。

⑧ みずほ銀行徳島支店の基壇

1929年(昭和4年)に日本勧業銀行として建設されました。北西側の基壇に焼夷弾が直撃したと思われる痕跡があります。



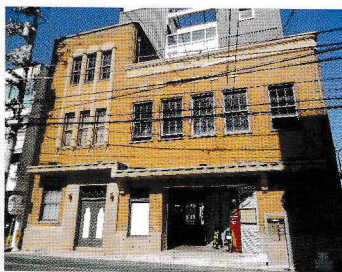
○秋田町空襲



徳島大空襲より前の6月22日、秋田町周辺に爆弾が投下され123人が亡くなりました。秋田町3丁目に住んでいた当時国民学校5年生であった横山正さんから話を聞きました。

「4歳下の弟を連れて近所の知人宅に母が縫ったモンペを届けに行った時に50kg爆弾が投下された。自分も顔に怪我をし、弟は爆弾の破片が頭部をかすり何針も縫う大怪我だった。同じ部屋にいたその家の女の子と母親は残念ながら亡くなった。自宅の梁の下敷きになり身動きできなかった母は皆に助け出され病院に運ばれていた。顔なじみの近所の人だけでも10数人が亡くなった。」(2011.11.3)

⑨ 国際東船場 113ビル (旧高原ビル)



1932年(昭和7年)に建てられた鉄筋コンクリート3階建てで中世の西ヨーロッパのロマネスク様式の建物。外壁はれんがではなくタイル貼り。窓は当時では珍しいドイツ製で針金でできた亀甲網入りのため、大火による高熱でひびは入ったものの原型をとどめ、現在もそのままの姿をとどめています。徳島大空襲で残った数少ない建物の一つで、1997年(平成9年)に国指定登録有形文化財に登録されました。

2008年(平成20年)から建設会社「国際」が所有し、テナントビルとして使用していますが、ひび割れガラスの残ったフロアはギャラリーとして一般貸出もしています。



⑩ 三河家住宅

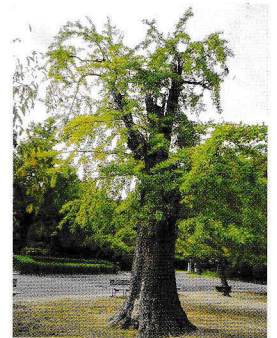
1928年（昭和3年）、医師だった三河義行氏が建てた鉄筋コンクリート造り3階建て住宅。基本はドイツ風ですが、氏がヨーロッパ滞在中に見たさまざまな建築物に影響を受け、ゴシック、バロックなどさまざまな様式が入り混じった不思議なデザインになっており、関東大震災後なので耐震性も考慮されています。



徳島大空襲で住宅西隣の病院を焼失し、住宅の一部を診察室などに使用していました。病院閉院後は学生の下宿所として使用していましたが、2011年（平成23年）に徳島市に寄付されました。市は保存活用方法を検討中とのことで非公開です。2007年（平成19年）に国の重要文化財に指定。

⑪ 徳島中央公園の銀杏

第1回の戦跡めぐり（2010.5.3）で中央公園を通りぬけていた時、根元の太さに比して高さが低い銀杏の木の前で、参加者の中内輝彦さんが「旧制中学に通っていたが、空襲の一週間後にこのあたりを歩いた。多くの被災者がいたことと、この大きな銀杏の木の先端がブスブスと燃えていたことが記憶にある。でもその木がこうして今も新芽を出していることに感慨深いものがある」と語ってくれました。



生家は数寄屋橋を渡ってすぐ北側隅櫓跡の石垣の上に建つ料亭「喜楽」、東條浩士さん（右端）は当時8歳。

「3日の夜も家とつながった広い防空壕で母、祖母、4人のきょうだいと布団を敷いて寝ていた。生家が焼ける煙が壕に立ち込めてきたので、姉と一緒に布団をかぶり波状的に投下される焼夷弾の止み間に外へ出た。公園内の池に入り城山の木が焼かれて落ちてくるのを防ぐため濡らした布団をかぶっていたが、近くにあった武徳殿が燃え始めて池の水が熱くなってくるし、このまま死ぬのかと思った。夜が明けて見えた太陽は紫色だった」と、生家跡やバラ園の前の池の前に立ち、地獄絵図だったという大空襲の体験を話してくれました。（2017.11.3）



⑫ 城東高校の赤れんが塀

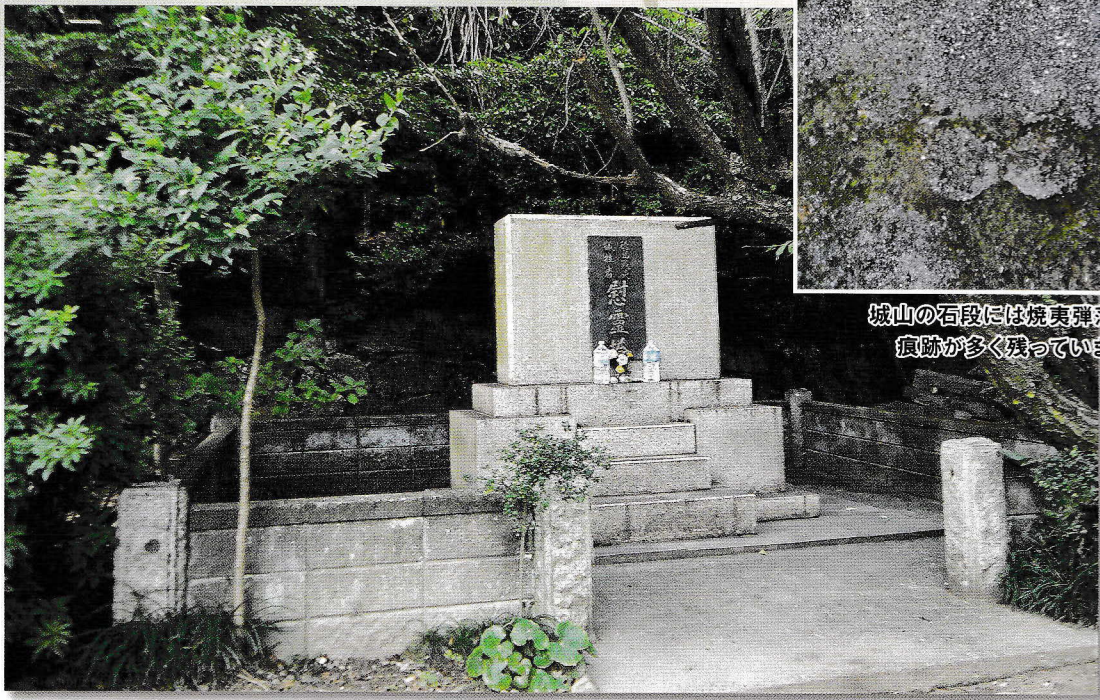


火災で焼けた跡が残る城東高校北側の赤れんが塀は2004年（平成16年）の校舎改築の際に取り壊されましたが、徳島大空襲の惨劇を伝えるためにと一部分がモニュメントとして残されています。

⑬ 防空壕跡



城山の北側にある防空壕跡で奥行き10メートルです。子ども時代に中で遊んだという年配の方がいますが、今は入れません。城山下を南側の貝塚跡まで貫通する予定だったそうです。



城山の石段には焼夷弾落下の痕跡が多く残っています

空襲から10年後の1955年7月4日に城山の東二の丸天守跡に建立された戦災犠牲者慰霊塔

編集後記

徳島大空襲の体験者は高齢化し減少しています。大空襲に耐えた建造物も年月の経過とともに減っています。徳島九条まつり「戦跡めぐりピースウォーク」には第1回から9回までに延べ264人の参加があり、今も残る徳島大空襲の跡を訪ね戦争の悲惨さを実感し平和の大切さについて考えてきました。

なお、パンフレット作成にあたり、徳島新聞掲載記事や県立博物館・郷土史家の方々の資料や文献を参考にさせていただきました。深く感謝を申し上げます。(高開)

発行日：2020年11月3日

発行：九条の会徳島（徳島市中洲町1-35-1 上地法律事務所気付）

編集：上地大三郎、遠藤理恵子、河村洋二、高開千代子、谷西健司、
中野真由美、八田昌子、増田秀司、見田治、山田節子

協力：福原健生（元徳島市史編さん室長）